

アウトドア・プロダクツ/モノグラム ¥1,000

アウトドアで重宝する速乾性の高いシリーズ。写真は35×80cmのフェイスタオル。サイズは、特大の145cm×180cmからハンカチサイズの25cm×25cmまで全9サイズ。バスローブもある。色は計6色。商品は、HPからネットで注文するか、銀座の「いまばりタオルブティック」などで買える。

●商品問い合わせ先
池内タオル ☎0898(31)2255 GO! ☎1160



●素材は綿、ポリエステル、レーヨンのミックス。染まり具合が違うので模様になる。



「タオル生産日本一」の街が挑んだ
エコ・プロダクツ

風

がつくったタオル



●これが秋田の風車。全部で24基。企業が年間40万kWの契約をすると、風車が1本たつ。



↑「環境への配慮は社長の方針」と巻内さん。「材料がオーガニックでも、工程がクリーンでなければ」と風力発電を導入しました。

日本のタオルの約6割を生産する街が四国にある。愛媛県の今治市である。人口17万人の街にタオルメーカーは500にのぼるといふ。四国最高峰の石鎚山系から流れ出る水は染色に適し、今治は江戸時代から織物や染物の産地として知られた。今回紹介する「池内タオル」は、タオルの街、今治でも異彩を放つ消費する電力を、すべて風力発電でまかなう日本初の企業なのだ。池内タオルの電気を作っているのは、日本自然エネルギー社が運営する秋田県能代の風力発電施設。といっても、直通電線で電気が届くわけではない。同社と年間40万kWの契約を結ぶことで、風力発電所が電力会社に売った電気を、間接的に買ったことになるのだ。値段は通常よりも2割高い。しかし、



↑半端な長さの余り糸を1本につなげる機械。リサイクルにも気をつけているエコ企業だ。

こうした企業が増えていけば、結果的に、総電力に占めるクリーン電力の割合が高まるだろう。「電気代が高い分、企業は節電すればいい。電気代はタオル1枚のコストにさほど影響を与えないから値上げの必要ありません」と、環境管理担当の巻内基さん。アメリカのアウトドア・プロダクツ社と提携した新作も、もちろん100%風の方でつくられた。独特のカラーグラデーションは、今治自慢の日本3大急潮、東島海峡をイメージしている。